

2023年度 事業報告

2023年4月1日から2024年3月31日まで

I. 避難者を支える活動

(1) 事業の成果と課題

福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業を中心に四国に避難している方々への様々な相談支援を行った。相談件数自体は、昨年度とほぼ同様、一方で、相談内容は、個別化・深刻化しているケースが多く、他機関と連携しながら対応しているケースが増えてきた。

個別訪問や交流会では、避難者同士や避難者と支援者、地域住民等がつながり続けることでの孤立感の軽減や支えあえる実感などをもたらすことができたのではないかと考えている。毎月実施したオンライン交流会では、参加者が固定化してきたが、同郷の方同士が話をしたり、震災のことを語ったり、近況報告をし合ったりする場面があり、つながりを維持していく事の大事さを再認識した。

課題点としては、オンライン交流会の参加人数が少なかった点である。コロナが収束している中、オンラインでの交流会のニーズは低くなってきたと考えている。

(2) 事業の実施に関する事項

【 情報提供・相談業務事業 】

① (相談業務事業) ※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

・事務所内を相談窓口として活用し、平日の10時～15時開所した。電話、メール、SNSなどによる相談は随時対応した。

相談件数 (のべ件数) 98件 (2022年度 115件、2021年度 115件)

相談者数 (実数) 12人 (2022年度 21人、2021年度 63人)

来所者数 (のべ数) (避難者のみ) 173人 (2022年度 46人、2021年度 23人)

② (情報受発信事業) ※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

・情報受発信の本拠地として、情報受発信を行なった。

・機関誌『楽しんで！四国LIFE 四国内避難者・移住者通信』を発行し、四国内の避難者約40世帯に郵送した。春号7月、夏号9月、秋号11月、冬号2月に発刊した。

・会員約50名には、年に4回(春号7月、夏号9月、秋号11月、冬号2月)『えひめ311通信』を発刊した。

・地域の情報コーナー、NPOサポートセンターなどに機関紙やちらしを配架していただき、広報活動にも努めた。

・交流会などの各種イベント案内は、その都度避難者の方々へちらしを郵送した。

・ホームページ、SNS(Instagram、X、フェイスブック)については随時更新を行った。

③（四国内避難者への訪問活動）

・四国内避難者を対象に事前アンケートを実施し、希望された方々へお米を携えた見守り訪問を実施した。継続している事業なので、避難者の方々との信頼関係も深まり、訪問時に現在の生活状況や将来的な悩みなどを話される方もおり、持ち帰った相談に対しては、継続的な支援を行った。

・お渡ししたお米は、愛媛県松山市の農業者の堀内さんに協力していただいている。

・今年度は、愛媛：14世帯、香川：5世帯、高知：3世帯、徳島：1世帯、その他：2世帯

合計：25世帯（郵送：14世帯、事務所で手渡し：5世帯、訪問：5世帯）

（2022年度は、愛媛：20世帯 香川：6世帯 高知：4世帯 徳島：0世帯 合計：30世帯）

（2021年度は、愛媛：17世帯 香川：6世帯 高知：3世帯 徳島：0世帯 合計：26世帯）

（2020年度は、愛媛：19世帯 香川：7世帯 高知：4世帯 徳島：0世帯 合計：30世帯）

④（連携構築のための取組） ※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

・福島県庁の避難者支援担当者と愛媛県庁の担当部署へ事業説明に伺った。（4月17日）

【被災者・避難者の『命と尊厳』を守るための事業】

①（交流会事業）

<愛媛県内交流会事業>

・8月20日石手寺のお施餓鬼に合わせ、『東日本大震災追悼と復興を祈る盆踊り』を実施した。新型コロナウイルスの影響で中止や規模を縮小しての開催が続き、今年は4年ぶりに従来の規模で開催することができました。色とりどりの浴衣や100人前のカレーを用意していただいて、子どもたちを中心に浴衣を着たりカレーを食べながら交流しました。他にもキッチンカーや屋台、DJ住職の登場もあり、とても盛り上がりました。そして福島の相馬盆唄を踊る際には、東京から来られた大江戸助六太鼓の皆さんが太鼓を叩いてくださり、それを中心として輪になって踊りました。最初はみんなぎこちなく探り探り踊っていましたが、次第に体に馴染んで来て、だんだんと自然に踊れるようになりました。途中から海外の方々も交じり、避難者の方、移住者の方、地域の方が一つとなり楽しい時間を過ごしました。踊ったあとは、キッチンカーや屋台の美味しいものを食べて夏を感じました。

・3月11日に石手寺で開催された3.11追悼式後に交流会を行った。参加者人数は、昨年度と同様約

20名であった。

交流会終了後、石手寺内で能登半島地震災害支援のための募金活動や夏に実施した『知らない子ども達に3.11を伝えるプロジェクト:被災地訪問』についての記録映像の視聴と報告会をおこなった。

・3月31日（日）道後公園でお花見交流会を実施した。参加人数は、9名（昨年度は16名）少ない人数の参加ではあったが恒例行事なので継続していきたい。

<オンライン交流会>

・コロナ禍からスタートしたオンライン交流会ですが、毎月1回第2月曜日の13時～15時に、ZOOMを使い実施した。各回の参加人数は、1～5名程度であった。大抵フリーテーマで行ったが、避難元の話や文化の違いなどの話題はいつも盛り上がっていた。コロナも5類に移行され、オンラインでの交流会のニーズは減ってきたと思われる。

<四国避難者交流会>

・11月25日（土）26日（日）の1泊2日で四国避難者交流会を実施した。行き先は、島根県とし、主な行先は、出雲大社・水族館等であった。参加者に未就学児もいたので子どもも大人も楽しめる内容となるよう工夫した。

参加人数は、14名

参加費：大人（中学生以上）12,000円 / 子ども（小学生）7,000円 / 未就学児 無料

		行程				宿泊地	
1日目	11/25(土)	8:00	9:30	9:50	11:20	国立公園 三瓶山 三瓶温泉 さひめ野 〒694-0222 島根県太田市三瓶町志学2078-2	
		えひめ311事務所発		瀬戸田SA	七塚原SA		
		11:40	12:30	13:00	14:00		
		たたらば香番地 ※昼食		出雲大社			
		15:40	16:40	17:50			
		島根ファイナリー		さひめ野	※夕食は19時から		
2日目	11/26(日)			8:00	9:20	11:30	
				さひめ野発	島根県立しまなみ海洋館アクアス		
		11:50	13:00	14:00	14:15	15:30	
		道の駅 ゆうひパーク浜田	道の駅 千代田				
		※昼食					
		15:50	17:30				
		瀬戸田SA	えひめ311事務所着				

②（帰省旅費支援事業）

・四国内避難者 19 世帯 42 名（2022 年度 31 世帯 47 名、2021 年度 17 世帯 41 名、2020 年度 19 世帯 56 名）の方々が利用した。家族との再会やお見舞い、お墓まいり、進学準備などのための利用がみられた。

③（健康診断実施事業）

・甲状腺検査をはじめとする健康診断を愛媛生協病院の協力のもと、実施した。当団体は、受診日の案内、受付窓口を担当した。合計で 4 名(2022 年度 8 名、2021 年度 1 名、2020 年度は 5 名)の避難者が健康診断を受診した。

④（自立支援事業）

・協働オフィスの管理事務費を充てる。
・コロナ禍以降、久しぶりの外でのイベント（砥部社会福祉協議会主催の福祉フェスタ）が開催され、ブース出店した。芋煮・ずんだもち・コーヒーなどを販売し、当法人の広報も行った。

Ⅱ. 被災地の復興に向けた活動

（1）事業の成果と課題

当法人の 3 本柱の 1 つである『被災地の復興に向けた活動』は、西日本豪雨災害（2018 年 7 月）以降実施がなかったが、2024 年 1 月 1 日に発災した『令和 6 年能登半島地震』における被災者支援活動を行った。東日本大震災を経験した被災者として、被災地に思いを寄せながら「何かできることはないか」と思い、理事や関係者、連携団体等で話し合いながら【能登半島地震被災者支援・チーム愛媛】を発足し、被災地訪問・炊き出し・柑橘お届けを実施することとした。

課題としては、実際、被災地で発災後間もなく、多くの炊き出しを行ったのは初めてだったことから準備や炊き出し会場との調整、ボランティアの確保等、戸惑うことが多かった。しかし、被災地支援活動を長くしてきた NPO や調理師からアドバイスをいただいたり、支援活動に賛同して下さった個人・団体・学校・幼稚園・企業等からの協力を得て実施することができている。当法人だけでは微力だが、【能登半島地震被災者支援・チーム愛媛】を発足したことで多くの方が関わりやすくなり、大きな力となり活動に結びついている。

(2) 事業の実施に関する事項

① (被災地支援事業)

能登半島地震被災者支援・チーム愛媛と共催して事業を行う。

活動内容は、以下の通りである。

2024年2月4日(日) 5名参加

被災状況の確認・ニーズ調査・相橋お届け(520キロ)

【七尾市】山王小学校・鉦打農林漁家高齢者センター

【輪島市】輪島診療所・地域生活支援ウミュードゥソラ

輪島市文化会館

【金沢市】木下工業株式会社



01

2024年2月24日(土) 15名参加

相橋お届け(1000キロ)・炊き出し(鯛めし・芋炊き100食分)

【七尾市】鉦打農林漁家高齢者センター

【輪島市】輪島診療所・地域生活支援ウミュードゥソラ

輪島市文化会館



02

2024年3月17日(日) 20名参加

相橋お届け(1240キロ)・炊き出し(卵とじうどん・肉じゃが・おでん150食分)

【七尾市】中島町コミュニティセンター鉦打分館・oneチーム七尾

【輪島市】輪島診療所・地域生活支援ウミュードゥソラ・仮設住宅

【珠洲市】珠洲市役所



03

2024年4月6日(土) 22名参加

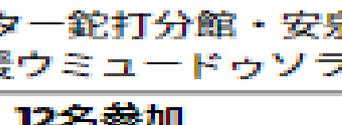
相橋お届け(1050キロ)・炊き出し

(カレーライス三陸産ワカメとツナの縁結びサラダ250食分)

カフェコーナー設営、2か所で炊き出し

【七尾市】中島町コミュニティセンター鉦打分館・安泉寺

【輪島市】輪島診療所・地域生活支援ウミュードゥソラ・仮設住宅



04

2024年4月27日(土) 28日(日) 12名参加

相橋お届け(1088キロ)・炊き出し(筍ご飯・豚汁・ポテサラ・イタダリの炒め物・切り干し大根の煮物400食分)

カフェコーナー設営、2か所で炊き出し

【七尾市】中島町コミュニティセンター鉦打分館・安泉寺

【輪島市】輪島診療所・地域生活支援ウミュードゥソラ

【珠洲市・能登町】蛸島小学校・災害支援法北陸門徒ネット

05

2024年5月18日(土) 6名参加

相橋お届け(400キロ)・交流イベント提案

【七尾市】中島町コミュニティセンター鉦打分館

【輪島市】輪島診療所・地域生活支援ウミュードゥソラ

06

Ⅲ. これから起こる災害に備える活動

(1) 事業の成果と課題

コロナ禍により、オンラインの環境が整い、オンラインでの講演会や研修会が増え、回数は昨年度と比べ増えた。また、SNS を使い、防災豆知識や非常食レシピなどを発信することができた。SNS の反応も良く、発信する側も慣れてきたこともあるので、今後も SNS 等を使い、身近な話題として防災関連の記事を発信し、愛媛県に啓発していきたい。

古川ふれあい農園では、当団体が管理業務を行い、愛媛医療生協の「レインボーファーム」の方々が中心となり、高齢者の生きがいづくりや近隣の幼稚園のサツマイモ農園として役割を果たしている。また、能登半島地震での炊き出しの材料（ほうれん草、ゴボウなど）の提供を受けた。

東雲コミュニティーファームは、えひめグローバルネットワークと協働し事業を行い、東雲小学 2 年生の生活科の授業でさつまいも植えとさつまいも堀りを実施した。

課題としては、震災の時の写真や映像を事務所内で展示し、地域の方々に公開したが、避難者以外の来訪者は少なく、防災意識向上のための啓発活動までには至らなかった。

(2) 事業の実施に関する事項

①（講演会やワークショップ、写真展等開催事業） ・2022 年度 30 回 2021 年度 24 回 2020 年度 13 回

回数	実施日	講演内容など	実施場所	対象者	参加数 (概数)	担当者
1	5/9	災害支援プロジェクト委員会	愛媛県社会福祉協議会	災害支援プロジェクト委員	10 人	澤上
2	5/23	松山市市民活動推進委員会	コムズ	松山市市民活動推進委員	8 人	澤上
3	5/27	防災食パエリア会	事務所	えひめ 3 1 1 会員、一般市民	7 人	津賀（会員）
4	5/31	JCN ケースマネージメント推進会議	オンライン	ケースマネージメント推進メンバー	9 人	澤上
5	6/12	「震災から学ぶ」講演会	三瓶高校	生徒、先生	多数	澤上
6	6/16	「震災と人権」講演会	松山学院	生徒、先生	多数	澤上
7	6/30	JCN ケースマネージメント推進会議	オンライン	ケースマネージメント推進メンバー	9 人	澤上
8	7/3	JCN ケースマネージメント推進会議	オンライン	ケースマネージメント推進メンバー	9 人	澤上
9	7/9	松山市自主防災組織 選考委員会	松山市消防署	松山市自主防災組織補助金応募団体	30 人	澤上
10	7/20	災害支援プロジェクト委員会	愛媛県社会福祉協議会	災害支援プロジェクト委員	10 人	澤上

11	8/21-8/22	災害ボランティアセンター中核スタッフ養成研修	愛媛県社会福祉協議会	社会福祉協議会職員 災害支援プロジェクト委員	30人	澤上
12	8/23	JCN ケースマネージメント推進会議	オンライン	ケースマネージメント推進メンバー	9人	澤上
13	9/8	JCN ケースマネージメント推進会議	東京	ケースマネージメント推進メンバー	9人	澤上
14	9/21	「震災と人権」講演会	溝辺ふれあいセンター	地域住民	20人	澤上
15	9/27	「震災と人権」講演会	石手分館	地域住民	30人	澤上
16	9/30	森林ボランティア	久万高原町	愛媛県空調衛生設備業協会	多数	澤上
17	10/3	愛媛県ボランティア・市民活動センター運営委員会	愛媛県社会福祉協議会	運営委員	10人	澤上
18	10/6	JCN ケースマネージメント推進会議	オンライン	ケースマネージメント推進メンバー	9人	澤上
19	10/15	砥部福祉フェスタ	砥部町社協	地域住民	多数	澤上・吉田・新妻・宇津木
20	10/20	「いのちについて」考える	南中学校	生徒、先生、保護者	650人	澤上
21	10/31	福島県拠点事業研修会	オンライン	拠点事業従事者	多数	吉田・山川
22	11/1	JCN ケースマネージメント推進会議	オンライン	ケースマネージメント推進メンバー	9人	澤上
23	11/3	「震災と人権」講演会	湯山中学校	生徒、先生、保護者	200人	澤上
24	11/8	「震災と人権」講演会	南第二中学校	生徒、先生、保護者	600人	澤上
25	11/16	JVOAD フォーラム打ち合わせ	オンライン	フォーラム関係者	10人	澤上
26	12/1	「震災と人権」講演会	津田中学校	生徒、先生、保護者	500人	澤上
27	12/5	拠点事業ブロック会議	中央合同庁舎4号館	拠点事業従事者	多数	澤上
28	12/11-12	拠点事業被災地視察研修	被災地	拠点事業従事者	多数	澤上
29	12/12	JVOAD フォーラム	東京 KFC ホール	関係者	多数	澤上
30	1/19	被災地支援について意見交換	事務所内	電波塔さん訪問	3名	山川
31	3/12	被災地での活動報告	イキイキサロン市坪	地域住民	多数	澤上
32	3/12	愛媛県ボランティア・市民活動センター運営委員会	愛媛県社会福祉協議会	運営委員	多数	澤上
33	3/13	松山市市民活動推進委員会	コムズ	松山市市民活動応募団体		澤上
34	3/30	震災体験のヒアリング	事務所	中央高校生取材	2名	澤上

② (知らない子ども達に 3.11 を伝えるプロジェクト)

『西日本大震災』は必ずやってきます。その被害がどれ程のものになるのか、この愛媛である悲惨な出来事を繰り返さないために、東日本大震災を知らない子どもたちがこれから自分事として受け止められるような映像を作ることを目的に立ち上げたプロジェクトです。今年度は、被災地へ訪問をし、東日本大震災を知り、住民との交流を通じて被災者の心の痛みを感じ受け止めることを大きな目標とした。訪問後は、感想を出し合い、高校生を中心に動画を作り、大学生中心に被災地訪問に関するパワポを作成し、東日本大震災の被災地へ訪問して一番印象に残っていること、感じたこと、愛媛県民に伝えたいことをまとめた。

	日付	審議内容	開催場所
第2回	4月20日(木) 18時～	三瓶高校防災の取り組みについて報告 被災地現地訪問の日程決定 今後の進め方について	松山学院高校及びオンライン
第3回	6月26日(日) 20時～	プロジェクトメンバー募集ちらしについて 訪問先・利用交通機関について 説明会について	えひめ311事務所及びオンライン
第4回	7月19日(水) 15時～	被災地訪問内容とスケジュールの確認 役割分担	松山学院高校及びオンライン
第5回	8月1日(火) 16時半～	被災地訪問について 羽鳥先生より学びの時間 当日の役割分担について	松山学院高校及びオンライン
第6回	9月15日(金) 17時半～	被災地訪問の報告 あいテレビの視聴	松山学院高校及びオンライン
第7回	10月28日(土) 16時～	被災地訪問動画作成について	松山学院高校及びオンライン

<知らない子ども達に 3.11 を伝えるプロジェクト：講演活動>

・松山学院高等学校、三瓶高校にて311の被災体験を伝える講演活動を行った。三瓶高校では、“コギトタイム・防災”という授業を通じて、被災・避難体験の語りや、防災に関する知識などを授業で伝えた。澤上・垣下理事から被災体験や被災地から生まれた防災の話、阿曾沼理事から災害支援の話やドローン体験、福島県南相馬市の元保育園園長の遠藤先生からは被災当日の話や今思うことなどの学びの機会を作った。また、夏、被災地訪問した時の発表資料を作り三瓶高校の皆さんの前で発表する機会もいただき、より被災地へ関心を持ってもらうことや自分たちの地域を災害から守ること、自分の命を守ることを伝えた。

<知らない子ども達に 3.11 を伝えるプロジェクト:被災地訪問(希望者)>

- ・実施時期：8月 3泊4日
- ・実施場所：被災地(福島・宮城・岩手)
- ・参集範囲：プロジェクト参加者
- ・実施内容：被災地へ行き、五感を通じて、東日本大震災について学び、被災地に住む人との交流などを行う。
- ・参加費：25,000円程度(学生) 30,000円程度(一般)
- ・行程表：1日目 愛媛→福島
2日目 宮城県・岩手県へ訪問
3日目 福島浜通り地域へ訪問
4日目 宮城→愛媛

③ (被災地スタディーツアー)

・2月に開催する予定だったが、能登半島地震発災に伴い実施しなかった。

④ (防災カフェ(仮名))

・1回のみと開催となったが、事務所内で防災食を作り、震災の時の体験なども話しながら防災意識の向上に取り組んだ。

⑤ (災害時の四国内ネットワークづくり)

・特に活動はなかったが、能登半島地震発災後の支援では、今治のVサポートさんと一緒に現地視察や炊き出しに行くなど連携を図り、災害支援の経験の少ない当法人のバックアップをもらった。

⑥ (減災農園運営事業)

<古川ふれあい農園>

- ・古川ふれあい農園の運営管理業務を行った。
- ・レインボーファームが中心となって、三葉幼稚園とさつまいも植えを実施した。
- ・能登半島地震での炊き出しの材料(ほうれん草、ゴボウなど)の提供を受けた。

<東雲コミュニティーファーム>

- ・NPO法人えひめグローバルネットワークと共に東雲コミュニティーファームを利用した事業を行った。
- ・松山市立東雲小学校2年生の環境学習の場として6月にさつまいもの苗植え、11月に収穫を行った。